

牟田事務所 許可通信

<http://homepage3.nifty.com/doricamu21>

2013, 01

【建設】 【運送】 【産廃】 【風営】

★建設業★ あけましておめでとうございます

初詣に出かけて、目にする神社の建物って…

だれが建てるの？ だれが直すの？

A. 宮大工と呼ばれる大工さんが手掛けます。

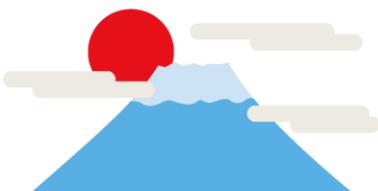
宮大工とは、お寺や神社、おみこしなど、日本古来の木造建築を手がける大工の事です。

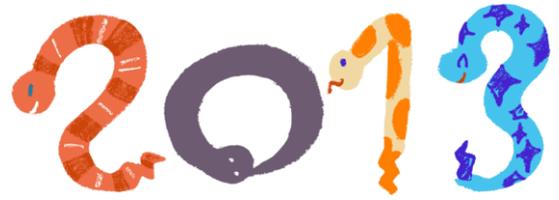
宮大工は国宝や重要文化財になっている古い建物の修理や、寺社の建設を手掛ける専門的な技術をもった大工の事です。その技術は文化財保存のために必要な技術として国から「選定保存技術」に指定されています。

日本の宮大工の歴史は飛鳥時代に朝鮮から来た慧滋〔えじ〕と慧聡〔えそう〕という僧侶が飛鳥寺を建てた事に始まります。これと同時期に聖徳太子も朝鮮から来たこの二人の僧侶から教えを受け、法隆寺などに代表する歴史的建造物を建立したと言われています。

日本は世界的に見ても地震大国です。したがって日本の建造物には地震の揺れに耐え得る工夫が施されています。昔の宮大工は、釘をほとんど使わずに建物を建てていました。これは**木に釘を打ち付けるよりも木を組み合わせた方が、地震などの自然災害に耐え得る耐震性をもっていたから**です。また、「礎石〔そせき〕」という石を建造物の土台にしてその上に柱を立てていました。こうすることによって地震の揺れに対する反発を抑え建物の崩壊を防ぐ事ができます。また地面から木材に湿気が吸い上がるのを防ぎ、木材を腐りにくくする工夫でもありました。

宮大工のほとんどは「渡り大工」と言われ、ひとつの地域に留まって大工仕事をするのではなく、各地の文化財を渡り歩いて修理をします。かつて宮大工は全国に数100人いましたが、現在では高齢化も進み、50人前後に減少してしまいました。その対策として「**伝統建築**」を学校教育に取り入れるなど、**後継者の育成を試みています**が、厳しい修行の中で技術を伝承しようという若者が少ない事が現状です。国宝や重要文化財の建築物の修復などで著名な宮大工には、西岡常一や佐々木嘉平、窪田文治郎、松浦昭次（俗に大工の人間国宝といわれる、文化財保存技術者）などがいます。





★運送業★

運行管理者基礎講習

日 程	会 場
平成25年1月29日(火)～1月31日(木)	愛知県中小企業福祉会館 6階ホール
平成25年2月13日(水)～2月15日(金)	名古屋市公会堂 4階ホール

NASVAのHPよりお申し込みいただくか、FAXでの申し込みになります。

整備管理者選任前研修

	日 程	会 場	申込期間
第5回	平成25年2月28日(木)	名古屋市中川文化小劇場	H25.1.21(月)～ H25.1.25(金)

対象：2年以上の自動車の「点検・整備」または「整備の管理」の実務経験を持って
整備管理者になろうとする方。

今年度最後の選任前研修です。

受講する予定だけど申し込み忘れそう・・・という方ご連絡ください。

健康診断だけではダメ 再検査に対応せず処分

先日、こんな記事を見つけました。

重大事故を起こした事業者に後日監査が入りました。日々、法令順守を徹底する会社にとって、会社側の責任を問われることはないと思っていたそうです。しかし、フタを開けてみると、指導監督義務違反を指摘されることに・・・。点呼をはじめ、適性診断や労働時間の管理など、コンプライアンスの徹底を図っている会社にとって、監査は「何を指摘されるか分からないだけにドキドキした」(同社社長)ものの、決して怖いものではなかったそうです。

目をつけられたのは健康診断。会社では健康診断を毎年実施しており、問われることはないはずでした。しかし、その後が問題だと指摘されてしまったのです。健康診断を受診したドライバーが、その診断で再検査の必要性を指摘されたにもかかわらず、会社に対応しなかったと・・・。監査の担当職員に「**健康診断を受けさせ、問題が出ればそれにも対応する。ドライバー管理はそこまで必要**」と指摘され、指導監督義務違反として処分を受け、その点について改善を促されたそうです。



牟田事務所でもセミナーやお客様の所で「健康診断の結果を元に指導等の対応をしてください」とお話をしています。

昨年は健康診断の結果をもとに指導を行い、早期発見・早期治療で大事に至らなかったというお話もお客様から聞きました。何をやるにもまずは健康第一。

健康診断を受診させているだけではいけません。必ず結果を見てくださいネ。

★建設業★

これからの日本どうなるの…どうしたらいいの？

中央自動車道 笹子トンネル天井板落下事故

昨年12月2日に、中央自動車道笹子トンネル（上り線）の天井板の落下事故により9名が亡くなられ、2名の方が負傷されました。

原因がトンネルの老朽化だとすると、笹子トンネル同様、築後30年前後経過したトンネルは全体の30%にも達しているそうですから、日本全国でかなりの数になるに違いありません。

全国一斉点検の結果、同じ中央道の恵那山トンネルでコンクリートひび割れ、東名高都夫良野トンネルではボルトの1本欠落、京滋バイパス・九州道他にもいくつかの異常が見つかりました。

一方、地元名古屋高速でも点検の結果、東山トンネルでボルトを締めるナット14個の欠落が確認されたとの発表がありました。東山トンネルは2003年に開通というので、築後約10年。この名古屋高速で気になるのは、「昨年9月に点検で見落としした可能性が高い。」との発表です。確かに、管理している市町村も、維持管理費もままならない財政状況なのかもしれない。効率一辺倒の民営化も問題だったのかもしれない。

これからどうしたらいいのだろう、技術者は高齢化、若者には不人気で極端な人手不足、加えて社会保険適用、国の予算もない……。

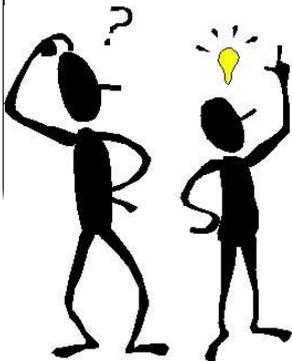
内部監査 定期的実施していますか

許可を取得して一安心 いいえ、これからが肝心

規制緩和とネット環境の整備により、許可や認可の申請が簡素化され、記入例等見れば誰でも申請書が作れそうな時代になりました。いかにもカンタンなようです。

しかし、許可後の法令遵守については、厳しくなる一方です。知らなかったでは済まされないのが法律です。

運送業から始まった社会保険。現在では、一人でも未加入者がいれば車両の使用停止処分となり、ナンバー没収！ 建設業も4年後には強制適用です。



契約書や台帳など帳票類の整備はもとより、従業員や下請け業者の時間管理から健康管理まで…誠に責任の多いこと！
ケースによっては、一発ノックアウト！ もあり。

定期的な内部監査の実施をお勧めします。

★産業廃棄物処理業★



2013年、大きく動くと言えば「**使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律**」環境省は昨年末から施行令案に対するパブリックコメントを募集しています。

現段階で、対象品目は**携帯電話やカーナビ、デジカメやパソコンなど30項目**が掲げられています。一通り読んでみると、大きくは収集運搬業や処分業と似たような申請内容ですが、所々「そう簡単には認定をしてくれないんだな・・・」という部分がありました。

まず、「**破碎、選別その他の方法により、使用済小型電子機器等に含まれる鉄、アルミニウム、非鉄金属（アルミニウムを除く。）及びプラスチックをそれぞれ高度に分離することが可能であることを証する書類**」とあります。これは具体的に電気炉等製鉄事業者やアルミニウム精錬事業者、非鉄精錬事業者に売却をした実績、プラスチックについて、再資源化又は熱回収を行う事業者に引き渡した実績を証明する書類。また、実績がない場合は、製鉄事業者・アルミニウム精錬事業者・非鉄精錬事業者に売却する旨の同意があったことを証する書類、プラスチックについては、再資源化又は熱回収を行う事業者との間における取引する旨の同意があったことを証する書類となります。過去に実績があれば問題ありませんが、計画の段階で申請をしようと思うとまずは、売却先との契約等が必要ということになります。

次に気になるのが「**個人情報記録されている使用済小型電子機器等について、当該個人情報の漏洩の防止のために必要な措置**を講じていること。」具体的には、携帯電話端末、PHS端末及びパソコンについて、盗難を防止するため、効果的なセキュリティー機能を備えた場所に保管し、監視カメラの設置や24時間体制の警備システム等により、保管場所、作業場所への適切な入室管理を行うとともに、再使用する場合を除き、個人情報が含まれると思われる部品については、物理的な破壊を行うこととしています。携帯電話やパソコンを取り扱わないとすればこの措置も必要ありませんが、現代、老若男女1人1台は携帯電話やパソコンを所有する時代です。その分使用済みの機器も多く排出されることを考えると、最良の措置だとは思いますが、なかなかの難題だと思います。

しかし、経済の面からも環境の面からも大きな効果がある制度だと思いますし、認定を受ければ、産業廃棄物処理業の許可なく広域的に事業を行えるため、広く浸透して欲しいと思います。**施行は今年の4月**。さらに詳しく発表されるのが楽しみです。



「素晴らしい技術を実用的にするために勝たなくてはいけない・・・」

お正月に放送された、絶対穴が開けられない鉄とどんな鉄も穴を開けるドリルの対決を特集した番組で、富山のドリル会社の技術の方が言っていた言葉です。両社とも社運をかけた戦いでした。無敗の精製加工会社（鉄）に対抗するドリル会社は実験に600万円もの費用をかけたとのこと。結果は鉄の勝利でした。ダイヤモンドのドリルも敵わなかった鉄・・・しかし穴を開けることが出来なければ実用的ではない。自分の所がやってやる。そしてこの素晴らしい技術を実用的にするという技術者さんの熱い思いに感動しました。技術大国の日本はこうして切磋琢磨して、より素晴らしいものが生まれるのだと思いました。

